

令和 7 年度 学校経営計画書

学校番号	53	学 校 名	静岡県立川根高等学校	校 長 名	桑原 克之
------	----	-------	------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

連携中学校、県内全域、全国から生徒が集う学校として、地元自治体、企業等との連携による探究活動や少人数指導などの教育活動を通して、未来を切り拓く力（自律性・人間性・探究心）を備えた人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー（重点事項はゴシック体で表記）

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー		アドミッション・ポリシー
・自らを成長させるための生活習慣と学習習慣が確立している。 ・誰に対しても思いやりを持って適切な行動を取ることができる。 ・文章・会話などで表現されているものを多面的・多角的に理解し、適切に表現できる。 ・自ら設定した課題の解決法を構想し、自己実現に向けて行動に移すことができる。 ・自己の在り方生き方を考えながら物事を捉え、解決するために行動できる。	【律する力】	・基本的な生活習慣を確立し、健康・安全な生活を送る。 ・基礎学力を身に付け、自らを成長させるための学習習慣を確立する。 ・自分の強み・弱みを知る。	・自分自身の良さは何か分かり、それを伸ばそうとする意欲がある生徒。 ・自分自身の課題は何か分かり、それを改善しようとする意欲がある生徒。 ・仲間とともに協力して粘り強く学ぼうとする意欲がある生徒。 ・探究的な活動を通じて、自分の身の回りや社会について考察しようとする意欲がある生徒。
	【繋がる力】	・異なる年代、地域の方々と関わろうとする。 ・他者に対して、思いやりを持って適切な行動をとろうとする。 ・集団において、目標を共有し、適切に意見を交換しながら活動しようとする。	
	【理解する力】	・文章、会話などで表現されているものを理解する。 ・様々な視点、立場で物事を考えようとする。 ・他者の意見に耳を傾けながら、自分の考えを、自分の言葉で伝えようとする。	
	【挑む力】	・困難から逃げ出さず、解決しようとする。 ・現状に満足せず、課題を克服し自分を高めようとする。 ・自己実現に向け、自ら考え、判断し、行動しようとする。	
	【探究する力】	・課題解決に向け、必要な情報を収集し、解決策を考えようとする。 ・身の回りの課題を見つけ出そうとする。 ・課題や卒業後の進路等を考え、取り組むべき目標や計画を立て、実行しようとする。	

(2) スクール・ポリシー具現化の柱（R 7 重点事項はゴシック体で表記）

ア【律する力】の育成

生活習慣と学習習慣の確立のため、活動の可視化を行い、成長の機会となるよう学校生活の様々な場面でフィードバックを行う。

イ【繋がる力】の育成

思いやりの心を育むため、学校内外において様々な人間関係を形成し、対話や協働のし易い機会を作る。

ウ【理解する力】の育成

物事を多面的・多角的に理解するため、異なる視点・立場の多様な捉え方を学び、自己表現する機会を作る。

エ【挑む力】の育成

自己実現に向けて行動するため、目標の設定段階から支援を行い、適切な対応で促し、難しい課題にも挑戦しやすい環境を作る。

オ【探究する力】の育成

物事の現状や課題に対し、自己の在り方生き方を考えながら向き合うため、生徒自ら問いを作る機会を増やし、個に即した対応を行う。

カ【安心安全な教育環境】の整備

安心安全な教育環境、働きやすい職場の確立及び教職員の働き方改革への取組を推進する。

様式第1号

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で表記）

柱	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当
ア	基本的な生活習慣を身に付け、学校生活に積極的に取り組むとともに、自らの健康管理に留意できる生徒を育成する。	基本的な生活習慣、あいさつ、規範意識 教員から率先してあいさつをし、朝のあいさつ運動や啓発活動を充実させる。 共通指導項目を教員間で共有し、きめ細かで一貫した指導を行っていく。	「さわやかな挨拶を心掛けている」で80%以上。	生徒育成課
		健康管理 定期健康診断後、再受診が必要と診断された者に対して受診の計画を立てる。夏の三者面談では、保護者にも検査結果の通知と、再受診の依頼をする。	歯科検診受診率60%以上。	生徒育成課(保健)
イ	多様な考えや、生き方を尊重し、他者と適切な関係を築くことができる生徒を育成する。	授業を通じた共感的人間関係を育む取組 他者との関わりを自ら積極的に生み出し、主体的に活動に参加するために、対話を中心としたAL型授業を展開する。	授業アンケート項目2-1、2-2、3-3が全て80%以上。	校務運営課(教務)
		多様な生き方尊重、思いやり、いじめ防止 全校集会や学級活動等を通していじめ防止教育を行う。個々の発言や行動が認められる集団づくりや、SC等を活用してコミュニケーション講座を実施する。	全校集会・科目等における「人権教育」の実施。	生徒育成課
		他者との関わり、自己肯定感 自己肯定感を得られるよう、学級活動や学校行事などの特別活動で、他者と関わる機会を増やし、役割を全うする機会を多く用意する。	「自分に良いところがある」で80%以上。	生徒育成課
ウ	目標を自ら定め、その実現のために学習習慣の確立と主体的・対話的で深い学びの定着に取り組む生徒を育成する。	生徒の学習習慣、授業への取組 家庭学習の習慣を身に付けさせ、基礎学力の向上を図る。 生徒が主体的に学ぶ授業を展開する。	生徒アンケート平日の学習時間平均60分以上の生徒80%。 テスト2週間前勉強時間60分以上の生徒80%。 授業アンケート項目1が80%以上。	校務運営課(教務)
		基礎学力の定着 進学試験や就職試験に対応できる基礎学力の定着を図るため、学習への目的意識を持たせて既習内容の振り返りや学び合いを推進する。	基礎力診断テストGTZ(学力到達度ゾーン)の2以上の生徒60%以上。	進路指導課
		進学希望者の学習指導 志望先の目標設定を、面談を通して丁寧に支援し、補習・模試を事前・事後指導を含めて企画・運営する。	進研模試の偏差値(7月/11月)が上がった生徒30%以上。	進路指導課
		主体的・対話的で深い学びの実現のための授業改善 職員研修の実施および授業研究週間を設け、生徒の主体的・対話的で深い学びを促す授業の研究・改善を推進する。	授業改善アンケート項目2が80%以上。	校務運営課(研修)
エ	授業、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、課題解決に向け、粘り強く取り組む生徒を育成する。	授業 観点別評価のフィードバックによって、生徒が自らの課題を理解し、その改善を図れるようにする。	生徒アンケートの「それぞれの教科の自分の課題が分かっている(成績通知などの観点別評価などを見て、自身の課題点がわかるか)」で80%以上。	校務運営課(教務)
		生徒会活動・部活動等 生徒が主体的に活動できるように、生徒の考えが尊重され、積極的に運営に参画する環境を整える。	「学校行事・生徒会活動・部活動に積極的に参加した」で90%以上。	生徒育成課
オ	連携型中高一貫教育、探究学習等を充実させ、生徒の教育活動が推進される環境を整える。	連携型中高一貫 各委員会の活動を全職員で共有し、一貫教育の目標やねらいの理解浸透を図るとともに、生徒、保護者に連携型中高一貫教育の趣旨や川根高校の魅力を発信する。	中学校への説明会等を4回以上開催し、充実した広報活動を展開する。	管理職
		探究活動 自己の興味・関心に基づいた問いをベースにして3年間の体系的な探究カリキュラムを遂行し、年度末に連携中学校との合同による成果報告会を実施する。	生徒アンケート(自己評価)で「探究する力」2.70以上。(令和6年度2.62)	未来検討

様式第 1 号

		川根留学生 川根留学生在安心して安定した生活を送ることができるよう、探究学習等を通して、安心できる場所を学校内外に増やす。	生徒アンケート（川根留学生）の「川根のことを自分なりに説明できる」で肯定的回答 70%以上。	管理職 未来検討
カ	困難を抱える生徒への支援や防災に積極的に取り組むとともに地域家庭と連携し安心安全な教育環境を整え、職員にも働きやすい学校作りを行う。	生徒支援 学習上又は生活上の困難を有する生徒の自立と社会参加を目指し、生徒支援関係機関と連携して系統性のある指導や支援を行う。	生徒アンケートの「自らを成長させるための生活・学習習慣が確立し、誰に対しても思いやりを持って適切に行動する」75%以上。	管理職 生徒育成課
		防災 地域防災への積極的な参加を通して、地域の方と関わるとともに、防災意識の高揚を図り、身に付けた防災知識を活用する。	防災アンケートから、防災についての意識が高まった 80%以上。	校務 運営課 (総務)
		施設設備 職員安全衛生委員会をはじめとする職員との連携強化により、情報収集に努め、状況の改善を速やかに行う。	施設・設備に関する職員安全衛生委員会の提言の実施率 90%以上。 施設・設備に起因した事故の発生数 0 件。	事務
		P T A、広報 川根高校の現状に合った形の P T A 活動を検討する。また、学校行事と関連させ、さまざまな形で保護者と学校が関わる機会を設ける。広報活動等を通して、本校を理解し、活動に興味を持ってもらう。	保護者の行事に参加した回数が 1 回以上。保護者アンケートで学校 H P や S N S を見ているが 70%。	校務 運営課 (総務)
		働きやすい職場環境 安全と健康に留意しつつ、業務の効率化を図り、時間短縮を図るとともに、年休取得日数の増加を目指し、ワークライフバランスの向上を推進する。	機械警備セット時間の短縮、前年度比マイナス 10 分。 年休取得日数の増加。	副校長